

糖尿病学会・糖尿病対策推進会議と連携研究の策定

研究分担者 植木 浩二郎 国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センター

研究要旨

これまでの糖尿病合併症抑制に関する臨床試験などを網羅的に検索し、有効な糖尿病性腎症の発症・進展防止法のエビデンスを収集した。また、日本糖尿病学会・日本糖尿病対策推進会議の活動と本研究における糖尿病性腎症重症化予防プログラムの連携法を検討した

A 研究目的

これまでの糖尿病の臨床研究等における腎症の発症予防・進展抑制のエビデンスをもとに日本糖尿病学会や日本糖尿病対策推進会議の活動と連動する腎症重症化予防プログラムを構築する。

B 研究方法

過去の臨床試験について、文献検索による腎症の発症・進展予防のエビデンスを収集する。また、現在、日本糖尿病学会や日本糖尿病対策推進会議が展開している糖尿病対策事業を調査して、それらと腎症重症化予防プログラムとの連携方法を検討する。

（倫理面への配慮）

文献的検討や学会等の活動を主体とする研究であり、特に倫理的に配慮を要する事項はない。

C 研究結果

糖尿病性腎症病期分類の根拠となっている論文、低蛋白食による介入論文、現在進行中の介入研究、透析予防指導管理の実態などにより、現在の血糖・血圧・脂質管理のターゲット、蛋白制限・塩分制限の目安を明らかにした。

D 考察

最近、古典的経過を経ずに eGFR の低下を来すいわゆる Daibetic Kidney Disease も多く認められるようになってきており、これらに対する介入法は、未だに確立していない。さらに、どの病期に介入すると最も効果があり、費用対効果も大きいかの検討が必要である。

E 結論

大規模データベースなどを用いて、Daibetic Kidney Disease を含めた病態・リスク因子の解明が重要である。また、既存の標準治療の普及も不十分であり、日本糖尿病対策推進会議の活動なども活用した啓発活動が重要であると考えられた。

F 健康危険情報

該当せず

G 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表

From J-DOIT3 to J-DREAMS 植木浩二郎
第59回日本糖尿病学会年次学術集会
シンポジウム 2016.5.21 京都

H 知的所有権の出願・登録状況

特になし